74. 民間精神科病院における退院困難な思春期症例の検討

中島公博、山口　択、山科俊輔、境さやか、高谷匡雄、佐々木竜二、富永英俊、千丈雅徳

はじめに

五稜会病院(以下、当院)は193床の単科精神科病院で、ストレスケア・思春期病棟を有し、思春期は中学生以上を診療対象としている。思春期症例は統合失調症や気分障害などの精神病圏の診断で入院するよりは、家族関係(特に母親)を問題とする事が多い。当院の全体の入院者は、平均入院期間が約100日、8割が90日以内に97%が1年未満で退院している。このなかで、10代思春期患者の退院困難例が数多くみられた。今回、90日以内に退院出来なかった思春期症例について、退院困難となっている要因についての検討を加え、どのようにすれば退院促進が出来るのかを模索した。

対象と方法

平成25年1月～平成26年6月までの入院者のうちで、10代思春期患者が90日以内に退院出来なかった症例の検討を行う。特に6ヶ月以上の入院となって症例について、長期入院となった事由、特に家族関係を含めた退院困難になっている要因についての詳細な検討を行った。また、長期入院後に退院となった事例を通じてどのような関わりが必要であるかを検討した。

結　果

当院における総入院者数は、平成25年1月～12月までが599名で、そのうち10代は60名(10.0%)であった(**表1**)。91日以上の入院期間となったのは8名(10代入院者の13.3%)であり、4名は1年を超えている(**表2**)。平成26年1月～6月までの総入院者は273名で、10代の入院者は32名(11.7%)、91日以上の入院期間となったのは7名(10代入院者の21.9%)であった。10代の入院者で入院期間が91日以上の中でも、6ケ月以上の入院期間となっているのは、平成25年度入院では6名、平成26年度は3名でそのうち2名はまだ入院中である。退院した13名中6名は退院後に再入院している。診断別では、行為及び情緒の混合性の障害、解離性障害、摂食障害が多いが、ベースには発達障害の特徴である対人関係、コミュニケーションの問題を抱えるケースが多い。多くの症例で、家族関係の問題、特に母親との関係性の不良から自宅退院が出来ないでいたり、退院したとしても再入院になっている状況であった。母親自身も精神的不安定さを抱え、母親の受け入れ準備が整っていないことが、思春期患者の要因以上に長期入院の事由となっている。

表1　平成25年1月～平成26年6月までの年代別入院者の内訳

年代	平成25年	平成26年	統計	%	男	女	入院病棟			
							急性期	療養(開放)	療養(閉鎖)	ストレスケア・思春期病棟
10歳代	60	32	92	10.6%	15	77	26	4	3	59
20歳代	134	44	178	20.4%	57	121	83	13	3	79
30歳代	143	67	210	24.1%	62	148	97	15	5	93
40歳代	103	55	158	18.1%	55	103	66	6	3	83
50歳代	68	33	101	11.6%	35	66	45	10	2	44
60歳代	68	31	99	11.4%	43	56	62	9	4	24
70歳代	23	9	32	3.7%	9	23	12	12		8
80歳代		2	2	0.2%	1	1	2			
総計	599	273	872	100.0%	277	595	393	69	20	390

表2　10代思春期症例・長期入院者の概要

No	入院時年齢	性	入院時診断	入院形態	転帰	入院日数	備考
1	17	女	摂食障害	任意	退院	424	1年以上
2	15	女	行為および情緒の混合性障害	任意	退院	395	1年以上、再入院
3	16	女	広汎性発達障害	任意	退院	377	1年以上、GH退院
4	13	女	不安神経症	任意	退院	369	1年以上、再入院
5	19	女	混合性不安抑うつ障害	任意	退院	263	6ヶ月～1年未満、再入院
6	19	男	自閉症	医療保護	退院	225	6ヶ月～1年未満、再入院
7	14	女	行為および情緒の混合性の障害	任意	退院	187	6ヶ月～1年未満
8	19	女	うつ病	医療保護	退院	169	3～6ヶ月未満
9	13	女	解離性障害	任意	退院	135	3～6ヶ月未満、再入院
10	18	女	解離性障害	任意	退院	108	3～6ヶ月未満、再入院
11	14	女	行為および情緒の混合性の障害	任意	退院	106	3～6ヶ月未満、再入院
12	15	男	強迫性障害	医療保護	退院	105	3～6ヶ月未満
13	17	女	混合性不安抑うつ障害	任意	退院	101	3～6ヶ月未満
14	17	女	行為および情緒の混合性の障害	任意	入院中	260	6ヶ月～1年未満
15	19	女	摂食障害	任意	入院中	246	6ヶ月～1年未満

医療法人社団五稜会病院

事例1：10代女子高校生、広汎性発達障害

小学校は1人で過ごすことが多かったが、中学に入り他交流するようになり、コミュニケーションのうまくいかなさに気がついた。言いたいことがうまく言えず、徐々に疲労感が募り、中学2年生頃から悩んだ。X－1年秋ころからイライラ感が出現し、授業に集中できない日も多かった。X年3月から休学を考えるようになり、スクールカウンセラーと面談したが進展はなかった。X年4月、休学のことや疲労感を相談するため当院初診。その後、入院するしないで母と揉めていたが、本人がようやく入院を希望しX年5月、当院ストレスケア・思春期病棟に任意入院となった。ところが情動不穏となり、7月に急性期病棟へ転棟、医療保護入院となる。10月、任意入院に切換え開放療養病棟に転棟。対人関係、コミュニケーション、こだわりなどの特徴が顕著にみられる。WAIS-ⅢではIQ＝104（言語性＝109動作性＝97）。X＋1年1月、障害者手帳申請。18に達していなかったため、児者転換の手続きなど児童相談書と連携した。3月から市内のグループホーム入居を模索したが、母の要望に叶わず、5月、当院運営のグループホームへ退院となった。

事例2：10代女子中学生、行為及び情緒の混合性の障害

X年9月ころから学校で皆にジロジロ見られる、ヒソヒソ話されていると訴え、大泣きする。不登校となり、「恐い恐い」ということが多く、漠然とした恐怖が生じた。また、爪楊枝で手の甲を引っ掻く自傷行為もみられた。9月、心配した母親に連れられてメンタルクリニックを受診した。母親の希望で精神保健センターで当院を紹介され、10月当院を受診した。その後、通院するも元気が出ない。体調が悪いと訴え、入院治療を希望し、X年12月当院ストレスケア・思春期病棟に任意入院となった。感情は不安定で衝動行為が多く、自制出来ずに無断離院等の問題行動があった。母親自身も精神科に通院し、患者を受け入れる余力はなく、患者も自宅は怖いといって退院が伸びてしまった。X＋1年1月、WISC-Ⅲでは全検査IQ＝57（言語性IQ＝68、動作性IQ＝53）。6月、療育手帳取得。平成26年12月、退院日を設定しては延期となっていたが、ようやく退院となった。しかし、退院後2日目、自宅で父母と一緒にいられずに大量服薬して再入院となる。

考　察

当院では殆どの入院患者が90日内には退院するが、思春期入院者で90日超の入院を余儀なくされる事例が散見された。思春期の精神科入院者の退院には、患者自身の病状もさることながら、受入れる側の家族の要因も重要になる。新井は、県立こども医療センターで1年以上の在院日数であった55例を対象に、小児精神科入院治療における長期入院症例の検討を行った[1]。長期入院の割合が最も高かったのは、広汎性発達障害で44.4%、行為障害39.1%であった。長期化の要因として（1）主症状の持続、（2）外泊中の主症状の持続、（3）家族機能の問題、（4）対人関係機能の治療、（5）施設入所までの待機の5つの要因が抽出された。入院が長期化せざるを得ない子どもの中には、上記の要因が単独、もしくは複合して関与している例が少なくないと考えられた、としている。

退院困難事例は、患者側要因としては思春期患者の社会適応力の低さ、発達障害等の障害特性があげられる。生活能力の獲得や対人関係能力など患者の成長には当然ながら時間を要する。それに対して、養育者側要因として、患者とのこじれた関係が平衡状態となり、患者に歩みよれない家族像が見いだされる。社会・環境的要因としては、中学生までは児童相談所が一時保護や施設への入所紹介を行ってくれるが、中学を卒業し18歳までの患者に対しての関わりは希薄になってしまう。これら3つの要因が様々に絡み合い、退院には各々の要因の改善に加え、それらの関係のバランスも重要になる。バランスが極端に悪い、もしくは崩れている場合に退院が難しくなる。家族の受け入れ困難な場合にはグループホームへの退院も考慮すべきである。事例では、1年以上の入院期間を経て、当院のグループホームへと退院した。18歳未満であったため、障害者福祉サービス利用のために児者転換を行うなど、児童相談所と連携して退院支援を行った。関係機関との連絡調整が必要不可欠であることはいうまでもない。

ま と め

思春期精神障害の退院困難事例に対して検討を加えた。患者の病状、家族の受入れ、社会・環境要因の3つのバランスを考慮した退院支援が必要である。家族の受入れ困難ケースではグループホームへの入居も含めて退院への足掛かりを掴む必要がある。

文　献

1）新井　卓、庄　紀子、豊原公司、他：小児精神科入院治療における長期入院症例の検討児童青年精神医学とその近接領域：41-56，2009